

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

※北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究で実施

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

4月12日に祝津ホタテ養殖漁場の「かみ」、「なか」、「しも」、の3カ所で、表層から水深30mまで3層にわけて浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、ザラボヤの浮遊幼生は確認されませんでした（表1）。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温 【℃】	クロロフィル 【μg/L】	ザラボヤ	
				個	個/トッ
かみ	0~10m	8.0~8.3	0.4~2.2	0	0
	10~20m	8.0~8.2	1.4~2.0	0	0
	20~30m	7.5~8.0	1.2~1.9	0	0
なか	0~10m	8.1~8.2	0.5~1.8	0	0
	10~20m	8.1~8.2	1.5~2.0	0	0
	20~30m	7.5~8.1	1.5~2.3	0	0
しも	0~10m	7.9~8.3	0.5~2.9	0	0
	10~20m	7.6~8.0	1.2~2.4	0	0
	20~30m	5.4~5.5	1.0~1.9	0	0

【参考資料】

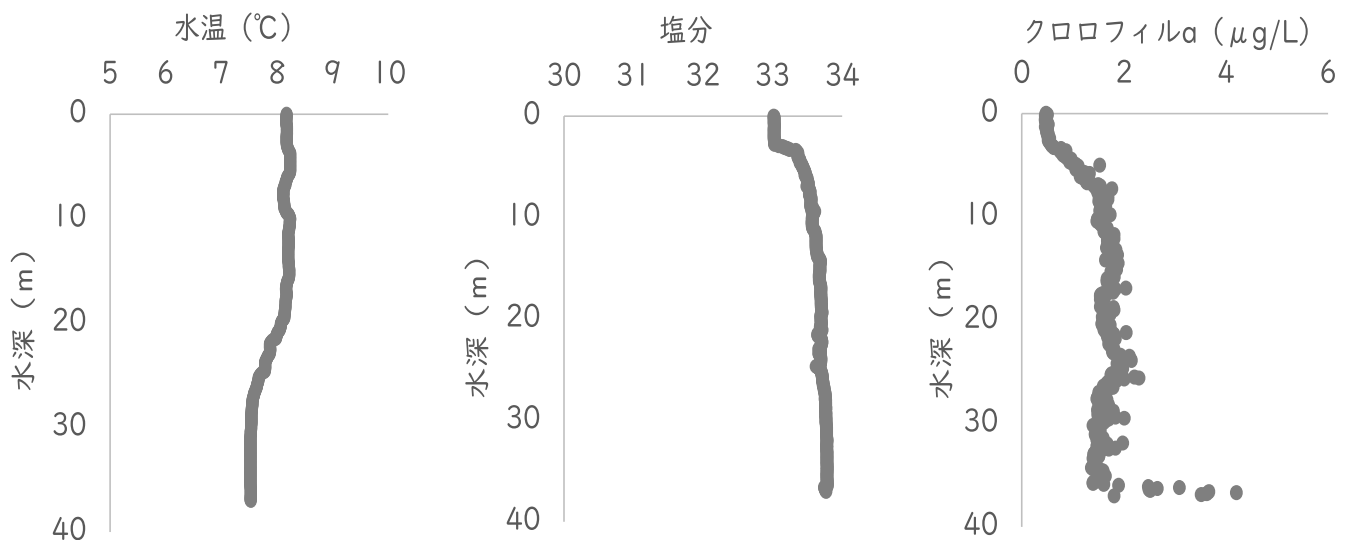


図1：「なか」の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布

◎ヨーロッパザラボヤ付着量調査結果

- 部会の桁に設置した試験籠にザラボヤの付着が確認されました。
- 試験籠の付着数は1個体で、12段目の上面に90mm・19.3gのものが確認されました。
- 令和2年5月に設置して11か月経過しましたが1個体しか確認されず、前年同月の付着数は29個体だったことから、令和2年度のザラボヤ付着数は少なかったと考えられます。
- 漁業者が10月に設置した籠を見せていただいたところ、1籠当たり10個体前後の付着が見られ、5月に入れた籠では秋には付着物に覆われてしまい、5月に入れた籠の継続観測だけでは、秋に付着する状況を把握できていない可能性が考えられました。
- 3月中旬に設置したザラボヤ付着プレートに、ザラボヤの付着は確認されませんでした。
- 令和2年度は年度全体を通してザラボヤの付着数は令和1年度に比べて少なく推移しました(図2)。

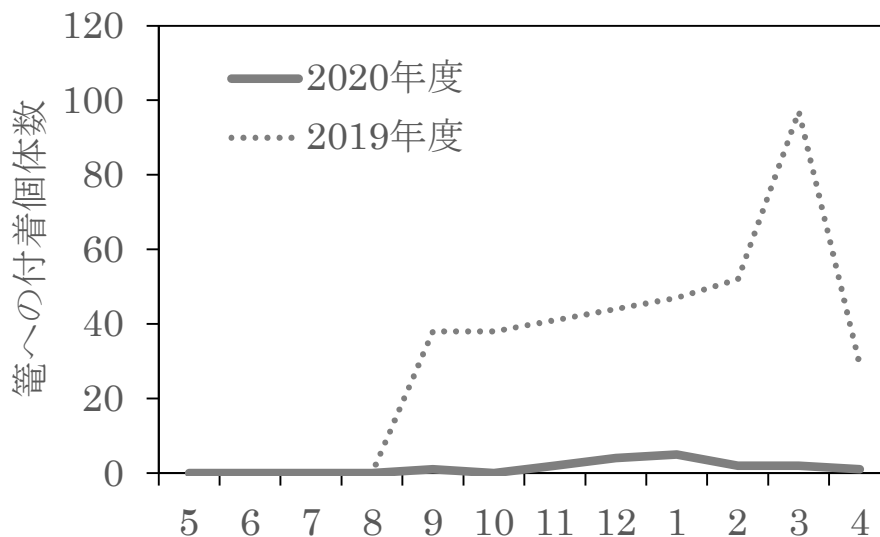


図2：ヨーロッパザラボヤの試験籠への付着数の推移と年度別比較
(2019年度・2020年度)

◎ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します。

※調査結果は中央水産試験場HPからも確認できます。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd0000002m9a.html>